



市民クラブ
山本 正信
議員

財政問題について

質問 平成27年度の各会計予算案の発表があり、本市の財政状況が厳しく、原因としては、経常経費の増大と過疎債の対象とならず努力が報われないとのことだった。

今後、当然、国に要望していく一方、行政運営の構造改革が必要だと思うが、市民に負担を求めない方向で財政健全化を図るのか伺う。

答弁 本市に裁量のある事業については、ある程度の見直しが必要であると思っています。できる限り市民負担を伴う見直しは避けたいという強い思いはありますが、非常に厳しい財政状況を考慮したとき、ある程度の覚悟を持って必要な判断をしていく考えです。

財政的に有利な過疎債は、空知管内で唯一対象地域に指定されておらず、滝川市が人口減少を食い止める努力を行った結果ではあります。国に対して、今後、要件緩和を求めていきます。

江部乙地区への農政機能の一部移転について

質問 これまで何度か質問したが、市長の一期目では実現しなかった。

農村環境改善センターの有効活用のためにも、また、江部乙地区の商農工の発展活動拠点としても、一部移転が必要と思われる。

農政機能の一部移転の可能性について、また、その際には、農村環境改善センターを直営とする選択肢もあると思うが、可能性について伺う。

答弁 本市の基幹産業である農業をより一層振興したいとの思いを持って、様々な農業施策を進めてきました。私は現場主義が必要であると考えており、農政にかかわる機能の一部移転は、農業振興の一助になるとの考えからです。

現時点では具体的な検討は進めていませんが、農業振興、地域振興のためにいかにあるべきかという立場から、地域の皆さんの意見を聞きながら判断していきます。あわせて、農村環境改善センターのあり方についても検討していきたいと考えています。



市民クラブ
木下八重子
議員

新年度予算編成について

質問 新年度予算案の概要が発表され、経常経費の増大で財政の硬化が一段と深刻化していることが浮き彫りになり、市の貯金となる一般会計の各基金から4億3、000万円の繰り入れを余儀なくされ、平成27年度末基金残高見込みは12億9、000万円で、平成に入ってからでは最低となっている。このような状況では、大きな新規事業はできなくなる。市長として大改革が必要ではないか。考えを伺う。

答弁 これまでも財政の健全化に向けては、総合福祉センターの廃止など公共施設の集約化をはじめ、温水プールの民間譲渡、休日夜間急病センター機能の市立病院移転など、将来負担の軽減に努めてきたところですし、歳入確保についても、メガソーラーの誘致のほか、定住自立圏構想を進め、本年度から特別交付税の交付が見込めるように

うになったところです。

財政の健全化については、新年度において財政健全化計画を策定し、事務事業の抜本的な見直し、歳入確保策の推進、組織機構・人員配置等の適正化などに取り組んでいきたいと考えています。

道路の維持について

質問 道路（市道）を巡回していると、まだまだデコボコな簡易舗装道路が多く見られる。交通事故の発生要因となることも考えられることから、市として段階的に改良舗装等を考えているのか伺う。

答弁 平成25年度末の市道の総延長は約454kmあり、そのうち約65%の295kmが改良済みとなっていますが、残りの159kmはまだに未改良です。

除雪機械の進歩や除雪技術の向上、スパイクタイヤの規制に伴い、路盤の少ない路線については厳寒期に凍上を繰り返す、舗装に割れやデコボコが生じるなどしていることから、危険な状態となっている箇所を中心に、緊急度、地域からの要望等を勘案し、優先順位を付け改良を進めているところです。